第 2016-37 号

恵みと真理のニュース

2016 年 9 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 私の魂が恵まれているように、すべての面で恵まれ、健康であるように導いてくださる神様に感謝と賛美を捧げます

私は村の住民大体が儒教の伝統と慣習を守りながら偶像崇拝が酷い村で生まれて育ちました。父親は毎日儒教を従って生きるように力を出して、母親はよりよりお寺に行って祭祀をしました。そんな家庭の環境で育ちながら私は中学生の頃友達をついて何回教会に行ってみました。どころが、ただついて行ったら礼拝がつまらなくなってもう教会に行かなくなりました。そうしながら、高校をミションスークルに入りました。学校で週二回ずつ定期科目で聖書を習う時間が決まってましたが、私は、その時間に御言葉を熱心に習わなくてただ点数を受けるため勉強しました。そうしたら神様と御言葉に対する信仰が出来ませんでした。今考えてもとても後悔しもったいない時節でした。

歳月が経って　１９７８年結婚して旦那の職場があるソウルで暮らすようになりました。結婚してみたら考えた以上家計が苦しくなりました。旦那が長男であり、見守る家族が多かったです。目の前が見えなくて様々な苦難があって毎日を不平し恨んで生活をしました。

ある日からは耐えられないほど頭が痛かったです。洗濯をする時も頭が痛くなると部屋に入って回復するまで座っていました。そんな私の姿を見て周りの人はの脳腫瘍が疑われるとし、早く病院に行ってみるとしました。それで、病院に行ったら病院では正確な診断が出ませんでした。病名がわからないと言われました。すると、婚家の中で教会に通う方がわたしを伝道しました。苦痛を表現する私がかわいそうと思って不信者の旦那まで教会に行ってみなさいとしました。しかし、私は強く断りました。それで、この後からは旦那は"教会”という言葉さえも話さないようにとしました。

どころが、おかしくて新しい家を探しながらよく教会に行きたいと思いました。私達が願っていた家を探し契約しようとする時に家の主人が私たちの子供が３人もいるから契約するのを拒否しました。それで仕方なくあちこちの家を探して、アンヤンソックスドンで引っ越しました。引っ越しした日から毎日のように恵みと真理教会の区域長が来て伝道しました。はじめはめんどくさくてむかついたですが、後はその熱心さに感動を受けて１９８６年２月初めて聖餐礼拝の時、教会に来て決信しました。

驚くことが初めて教会に来たその日、御言葉に大きく恵みを受けました。そして、聖霊様の臨在を悟り私を呼んでくださり救ってくださることを確信しました。聖餐式が行う時に多くの生徒が私を見ても全く恥ずかしくなくて感謝と喜びの涙を流しました。 その次の週から区域で２１日間期間を決めて祈りをしました。私は首区域長をついて熱心に祈りをしました。祈り会の期間に生徒が断食をして声高く主に叫びながら祈る時に病気にかかった子供が治って生徒達が聖霊の充満になり驚くべきことを見ました。祈り会に参席して１３日ぶりに聖霊洗礼も受けて異言の賜物も受けました。あまりにも嬉しくて讃美歌１８６章を歌う時間に感動を受けただ涙を流しながら歌詞を読みました。礼拝を捧げる時に私の罪を赦してくださり私の魂を救ってくださった神様の恵みに感謝して涙の礼拝を捧げました。

全てが新しくて変化されました。道に咲いた草も美しくきれいで神様の摂理を感じて賛美しました。その以前は旦那の作業服を選択するとむかついて不平をしましたが、今は楽しくて感謝し賛美を歌いながら洗濯をします。すべてが感謝でした。家の事で教会に行けない状況になると神様の御言葉や当会長の説教を通してくださるその恵みを受けなければもったいなくてどうしても礼拝に行きました。

そうしながら神癒の恵みを体験しました。水曜礼拝に当会長牧師が神癒の祝福祈りをしてくださる中で風歯の方今きれいに癒されましたと話した時に大きくアーメンと答えました。私はその間、歯茎からうみが出るほどの炎症がひどかったです。 驚くことは風歯が治り、また、風歯でひどかった頭痛もいつそうしたかのようにきれいに消えました。

１９８７年区域長の職分を受けました。足りない私に神様は聖なる職分をくださいました。区域を任されて区域礼拝を導くため行くと気に心が時時して私の心臓の動きさえ聞けるほどでした。

“わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。”（フィリピの信徒への手紙４：１３）御言葉を考え大胆にされ聖霊様を深く委ねて礼拝をよく終えることが出来ました。職分を担えるため平信徒聖書学校にも通い聖書大学と区域長大学にも入って熱心に勉強をしました。

力を尽くして主の事をしながら首区域長になり区域長２０年勤続賞も受けました。不信者で生きていた時を考えると神様の恵みであり驚くな神様の愛と摂理です。神様に全ての栄光捧げます。

私がイエス様を受け入れて信じた後から神様は家庭と私の魂が恵まれているように、あなたがすべての面で恵まれ、健康であるように導いてくださいました。"主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。”（使途言行録１６：３１）ハレルヤ！

旦那もイエス様を受け入れ救われました。息子は青年部で信仰のきれいな

姉妹に出会って結婚してほかの聖殿で聖歌隊員として奉仕し教会学校の教師で奉仕しています。長女は希望部で体が不便な子供達を愛で仕え結婚して、末子は神様が準備してくださった娘と出会い結婚しました。子供たちが日々信仰と愛で主が願う喜ぶ人生で生きるのを願い祈ります。

そうするうちに私は勧士になりました。それで使命と幸せをもって教会と生徒を仕えるように努力しています。いつも教会で徳と親切で仕え神様の栄光を表す者になり福音伝道にもっと力を尽くします。

決心したその日からただ主の御言葉と聖霊充満な教会で礼拝し相変わらず主だけを愛して教会を仕えるように助けてくださった神様、今日も貴重な御言葉でいこの水のほとり青草の原に導いてくださる神様、永遠に栄光を受けるべき神様に全ての栄光を捧げます。ハレルヤ！

［信仰コラム］ 尊い神様の思い

"神よ、あなたのもろもろのみ思いは、なんとわたしに尊いことでしょう。その全体はなんと広大なことでしょう。...”（詩編 139:17、18）

私達が社会生活を良くするためには他人の考えを見抜く必要がありまた、自分の考えを正確に表現しなければなりません。しかし、これより優先的なことがあります。神様の思いを知ることが急務で最も重要なことです。驚くべきなことは神様が人間が必ず知るべきの事事に対する神様の思いを広く知らせました。御造りなさった万物と人類の歴史を通じて啓示なさいました。しかし、これを通じては私達が知るべきの神様の思いを十分に分かることはできません。さらに、人間の救いと死後の世界、歴史の終末に対する神様の思いは分かることができません。私達が神様をどのように仕えるべきかについても分かることができません。聖書には神様の思いが豊かで明確に啓示されています。神様の思いを知ってその思いに従って行うと救いを得ます。そして、神様を正しく仕えるようになり平安と望みを得るようになり、無限の福を享受します。

神様の思いを知らなくて、神様の思いを無視しては神様に仕えることができません。その事実を聖書に記録された事件を通じて調べてみます。

アベルは神様の思いをそのまま受け入れて将来お越しになる救い主を信じる信仰を持って羊の初子とその油で神様の捧げ物を捧げました。しかし、カインは神様の思いを無視して救い主に対する信仰なしに自分が考え出した方法である地の所産を捧げ物にして神様に捧げました。彼が多様な捧げ物を祭壇に置いて熱心と真心を尽くしたが、これが神様の前では何の意味がありませんでした。旧約時代に神様がモーセを通じて下さった律法は全的に神様の思いによることです。しかし、祭司長ナダブとアビウがエホバ前の壇上で起こした火を香炉に満たすように指示する律法の規定を無視して他の火をエホバの前に焼香しました。すると火がエホバの前から出て彼らを飲み込み彼らがその場で死にました。彼らは祭壇の火であれ他の火であれ火の性能は同じだと考えて神様の思いを無視して自分勝手に行ったのです。神様の契約の箱はレビ部族の中でコハテの子孫が箱の輪に抜かれている通りに肩にかけて運ぶべきで絶対に触ってはなりません。しかし、契約の箱を運ぶ車がナコンの打ち場にきた時に牛がつまずいたのでウザは契約の箱を押さえました。その瞬間、神様が怒りを発し彼がその場で死にました。神様に仕えることには善良な意図だとしても無知な行いを正当化してくれることはできません。

神様の思いを知らないと人間の宗教行為が偶像崇拝になります。その宗教の歴史性と人類文化に及んだ影響と教理の倫理性、荘厳な儀式そして、多い信徒の数が救いを保証することではありません。聖書に啓示された創造主で救い主である神様、イエスキリストの神様に仕えない行為は神様の思いを逆らい神様が忌む偶像崇拝行為であります。

自分の考えで主の思いを否定するとサタンの使嗾（しそう）を受けることになります。イエス様が公生涯の最後に至りエルサレムに行き様々な苦難を受けて死なれ、三日目に蘇ることを言われるとペトロがイエス様に"主よ、とんでもないことです。...”と言いました。するとイエス様は断固として強力な態度で"サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている"と言われました。主に従う人は神様のことを思うべきです。人のことを思うとサタンの味方になることになってしまいます。

私達の心が神様の思いで満たされるべきです。そうなるためには第一、神様の御言葉を多く知るべきです。第二、神様が行ったことを想起すべきです。第三、神様の思いと相反した考えは仮借なく捨てるべきです。神様の思いを受け入れると考え方が卓越になり私達の心霊と肉体、生活にもたらす神様の恵みを体験するようになります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

あなたがすべてのことに恵まれ、

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書は人のたましいがよくできてすべてのことに恵まれ元気になる道を教えています。たましいとすべてのことと健康の中に優先順位はたましいがよくできるのです。 たましいがよくできることは何ですか? 天国に行くようになるたましいを示してたましいがよくできたと言います。 ほかに言ってたましいが救いを得るのです。それならどのようにするとたましいがうまくできますか? 救いを得ることができますか? これに対して聖書は簡単明瞭に答えています。 “主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます」”(使徒行伝16:31). たましいがよくできたということはイエスキリストを信じてたましいが救いをもらうようになったことを意味します。 神様は人生にたましいがよくできる道をくださったのみならずすべてのことによくできて肉体と心が元気になる道もおっしゃってくださいました。 たましいのよくできる道はイエスキリストを信じるこれだけ人の努力が全然必要ではないです。しかしすべてのことに恵まれ肉体と心が元気になるためには人の努力が必要です。 今日はすべてのことがよくできるためには人が 何のことをするのかに対して聖書の教えをよく見ます。 すべてのことがよくできるという意味は二つの種類で説明することができます。 一つはすべての事が順調に進行されて望んで計画したとおり成就するのです。 もう一つは将来に障害が発生して望んだ通りに進行することができなくなるし損失と苦痛にあうがこのすべての仕事が合力して終わりには良い結果を得るようになるのです。 この二つの 種類の例を聖書で探してよく見ます。

第一は、計画して望む事が一瀉千里に進行されて成就した例をよく見ます。

アブラハムが年を取ると息子、イサクの結婚を急ぐようになりました。 彼は信実した老けたしもべを呼んでイサクの妻を求める事を任せました。 そのしもべは “私の故郷の族属に行って嫁になる娘を選んで来なさい。” という指示を受けてメソポタミアのハランに行きました。ナホルの城に着いて井戸がある所に行きました。彼は神様に祈るのを水をすくってくれる娘に自分が飲む水をくれと要請する時に自分だけではなく彼のらくだにも水を与えれば神様が決めた人で分かると言いました。あの時 ‘リペカ’ という名前を持った娘が近付きました その娘は非常に美しく、男を知らぬ処女であった。彼女が泉に降りて、水がめを満たし、上がってきた時、しもべは走り寄って、彼女に会って言った、「お願いです。あなたの水がめの水を少し飲ませてください」。すると彼女は「わが主よ、お飲みください」と言って、急いで水がめを自分の手に取りおろして彼に飲ませた。飲ませ終って、彼女は言った、「あなたのらくだもみな飲み終るまで、わたしは水をくみましょう」。彼女は急いでかめの水を水ぶねにあけ、再び水をくみに井戸に走って行って、すべてのらくだのために水をくんだ。

彼女はイサクの花嫁で適切であると判断されたがまだ確認しなければならないことがありました。 第一、縁定めしない娘ではなければならないです。 第二、アブラハムの親族ではなければなりません。 第三、娘の親が承諾しなければなりません。 第四、その娘がイサクと結婚すると応じなければなりません。 五番目、ガナアンに付いて行くと言わなければなりません。 アブラハムのしもべがリペカに誰の娘なのか尋ねたらミルガがナホルに生んだ息子、ブドエルの娘であると言いました。
彼女はリペカがアブラハムの親族が分かってリペカの家で一日を止宿する事にしました。 アブラハムのしもべはリペカの家に行ってイサクの妻になってくれることをプロポーズしたしその親がこれを承諾しました。 それだけではなくリペカがイサクと結婚すると言ってガナアンに行くと言いました。 すべての事が順調に成就しました。 実に万事亨通でした。 アブラハムのしもべはリペカを連れて帰って来たし リペカはアブラハムの息子、イサクの妻になりました。 決して易しくないことなのにアブラハムが願ったしアブラハムのしもべが祈ったとおり一瀉千里で順調に進行されて成り立ちました。このようにすべてのことが順調によくできたことはなによりも助ける神様の摂理がいなければならなかったが、私たちが見逃してはいけないことがあります。 アブラハムとアブラハムのしもべの信仰です。 そして徹底的な準備と努力と賢くしたのです。

二番目は、期待することと努力する事に問題が発生して困境を経験するようになってもこのすべての事が合力して遂によくできた状態になった例をよく見ます。

ヨセフの生涯が代表的な例になります。 ヤゴブは息子が１２人であったがその中に十一番目の息子であるヨセフを特別に寵愛しました。これによってヨセフは兄たちの嫌われるようになりました。 ヨセフが１７歳になったある日奇妙な夢を見ました。 ヨセフは兄たちに彼が夢に見た内容を言いました。 “ わたしたちが畑の中で束を結わえていたとき、わたしの束が起きて立つと、あなたがたの束がまわりにきて、わたしの束を拝みました」。” ” ヨセフはまた一つの夢を見て、それを兄弟たちに語って言った、「わたしはまた夢を見ました。日と月と十一の星とがわたしを拝みました」。 “ すると兄たちの心は癬忌心で一杯になりました。ある日 父は彼に言った、「どうか、行って、あなたの兄弟たちは無事であるか、また群れは無事であるか見てきて、わたしに知らせてください」。 兄たちはヨセフをつかんで 彼を殺して穴に投げ入れ、悪い獣が彼を食ったと言おう。われわれは彼をイシマエルびとに売ろう。彼はわれわれの兄弟、われわれの肉身だから、彼に手を下してはならない」。兄弟たちはこれを聞き入れた。時にミデアンびとの商人たちが通りかかったので、彼らはヨセフを穴から引き上げ、銀二十シケルでヨセフをイシマエルびとに売った。彼らはヨセフをエジプトへ連れて行った。ヨセフはエジプト王の警護大将ボディバルのしもべになりました。 しかしまじめなヨセフの態度が主人の気に入ってその家事をすべて責任を引き受けて家事をする席に上がるようになりました。 ところでいくら進まなくて謀陷を受けて重罪人を閉じこめる監獄に閉じこめられてしまいました。 ヨセフが閉じこめられている監獄に王のお酒引き受けた長官とパンを引き受けた長官が投獄されました。

ヨセフが彼らが見た夢を解釈してくれたがその解釈どおり一人は処刑されてした人は復職されました。 復職されればヨセフを弁護すると約束したその長官は約束を履行しなかったです。ある日王が奇妙な夢を見た後に解釈する者を探したが解釈する者が誰もいなかったです。 この時王のお酒引き受けた長官がヨセフを憶え出して王に薦挙しました。 エジプト王の正面に立ったヨセフは王の夢話をきいた後 7 年の豊年後に 7 年の飢饉が近づくと解釈しました。そして災難に対する賢明な対処方法まで知らせてくれました。 エジプト王は感嘆してヨセフを直ちに国務総理の席に座らしました。
ヨセフは 7 年豊年の間に穀食を保存したし 7 年凶年が始まるとその穀食を放出しました。凶年は中近東地域の一帯を荒しました。 隣り国の人々も来て穀食を買いました。 ヨセフの父、ヤゴブも例外ではなかったです。 穀食が足りなくなったヤゴブは彼の息子にエジプトに行って穀食を買って来るように指示しました。 そしてヨセフの兄たちが穀食を買おうとエジプトに来て行ってエジプトの総理がヨセフであることが分かるようになりました。 ヨセフは恐ろしがる兄たちに言いました。
“兄が私をこちらに売ったのために心配するとか自分を責めないでください。 神様が命を救おうと兄の先に私を送りました。” ヨセフはその父と兄弟の家族を皆エジプトで招待して飢饉を免れさせて油っこい地に居住させました。歳月が経ってヤゴブが死にました。 葬礼を終えたヨセフの兄たちはヨセフに自分たちが過去に犯した罪によって仕返しにあわないか気づかいました。 ヨセフは兄たちに言うのを “あなたがたはわたしに対して悪をたくらんだが、神はそれを良きに変らせて、今日のように多くの民の命を救おうと計らわれました。それゆえ恐れることはいりません。わたしはあなたがたとあなたがたの子供たちを養いましょう」。彼は彼らを慰めて、親切に語った。”(創世記50:20,21) としました。 “神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。(ローマ人への手紙 8:28)と言うお話に違いないです。
このようにすべてのものが合力して結局よくできたことはなによりも神様の摂理がいなければならなかったが、私たちが見逃してはいけないことがあります。 ヨセフが事毎にまじめに行ったことと謙遜に処理したのです。 そしてこのような 処理 をするようになった基盤が神様を向けた愛と信仰だったという事実です。

イエスキリストを信じる皆さんはたましいがよくできた人々です。 だからすべてのことがよくできるのを胆大に切に求めるのにためらう理由がないです。 私たちのたましいがよくできるようになさろうとイエスキリストをくださった神様が私たちのために惜しむことが全然ないです。 皆さんの経営する事が望みどおりに順調に成り立つのを胆大に切に求めてください。もし困境と難関に会えば紆余曲折を通じて “すべてのものが合力して” 遂によくできさせてくれと切に求めてください。 そして忘れてはいけないことはすべての事がこの世の中で締め切られるのではなくて、キリストの審判台の前で最終決算をするようになるという事実です。 どの状況でも相変わらず神様を愛する聖徒の皆さんはこの世の中でしばらく受ける軽い患難までも極めて大きくて永遠な光栄を成すのを見るようになるでしょう。 神様は聖徒の懇求をきいてすべてのことがよくできさせます。何の事に会っても遂によくできさせます。 このような期待と信仰で暮す聖徒が正しかったということを神様が必ず証明します。